

日本ペイント 明治記念館 (東京・品川区)



幕末の黒船到来とともに、日本にもたらされたものの一つが塗料でした。黒船というと鉄製の蒸気船というイメージがありますが、実は木造で、タールで塗装されていたのだそうです。

その2年後には、日本でも洋式塗料であるペンキの使用が始まります。まず用いられたのは、外国より購入した軍艦であり、日本にやってきた外国人の邸宅でした。

明治に入り、近代化が急速に進むとともに、高価なペンキの国産化が強く求められるようになりました。

1880(明治13)年には、茂木重次郎がペンキの国産化に成功、翌1881年には、海軍の専属工場として光明社(日本ペイントの前身)が現在の港区芝に誕生します。

日本ペイント明治記念館は、元は1909(明治42)年に建設された、レンガ建て油ワニス工場です。品川区内の洋式建築物としては最も古いもので、明治の面影を残す貴重な建物です。日本ペイントでは創業100周年(1981年)を記念して、明治記念館と名付け保存、広く公開しています。



左 コロイドミル、右 石材ロールミル
顔料の粉碎、分散に各種の装置が使われました。

日本ペイントの創業者である茂木重次郎が最初に開発したのは、塗料ではなく、白色顔料の亜鉛華（酸化亜鉛）でした。それまで白粉として用いられていたのは鉛白でしたが、有毒の鉛を成分とするため、役者や芸者など白粉常用者には、鉛毒の被害が出ていました。鉛を用いない白色顔料、それが亜鉛華でした。重次郎は、手探りで亜鉛華の開発に成功、さらに亜鉛華を素材とする洋式塗料「油顔色（ペンキ）」の国産化に初めて成功します。この塗料は堅練り塗料といい、塗装職人がワニスなどで、粘度や濃度を調整して塗装しなければなりませんでした。そのため、1880年頃には、塗装現場で希釈する必要のない溶解塗料の開発に成功、広く塗料が普及するきっかけをつくりました。

記念館には1921年に設置されたボイル油製造装置があります。ボイル油は乾性油を熱重合して高分子量化したワニスで、塗料製造用にも塗装時の希釈材としても使われました。1973年頃までは現役で使われていたものです。

その他、ここにはかつての塗料製造に使われたボールミル、ロールミルなどが展示されています。また、明治期の塗料製造プロセスを描いた図もあり、明治の産業史の一端を知ることができます。

（八代 啓一）



ボイル油製造装置

日本ペイント 明治記念館

〒東京都品川区南品川 4-1-15 TEL 03-3740-1120

日本ペイント(株) 東京事業所内

最寄駅 JR 京浜東北線 大井町、京浜急行 新馬場

入館の際は、守衛所に声をかけてくださいとのこと



館内の展示

NPO 法人 スーパーコンポジット研究会

入会のご案内

自然界の材料に学びながら、自由でゆるやかなネットワークで次世代のポリマーコンポジットの研究開発を進めるスーパーコンポジット研究会は、①講演会、討論会等の開催、②四季報の発行を中心に活動を行っています。興味のある方はぜひご入会下さい。

入会申込書

- (1) 正会員
 個人 年会費 5,000円
 団体 年会費 20,000円
- (2) 賛助会員
 個人 年会費 2,000円

《会員への特典》

- ・講演会、討論会への特別割引
- ・四季報など情報の配信

●会費納入先

みずほ銀行 日本橋支店

普通預金口座 1034990

名義 NPO法人スーパーコンポジット研究会

NPO 法人 スーパーコンポジット研究会 入会申込書	
氏 名	
会社名 (団体)	
部 署	
住 所	〒
TEL	
FAX	
E-mail	
会員区分	お申込みにあたっては下記の会員区分を○で囲って下さい。 <div style="text-align: center;"> 正会員 (個人 団体) 賛助会員 (個人) </div>

＜役員・事務局＞ 理 事 長 由井 浩 (元三菱化学, 早稲田大学)
 副理事長・事務局長 瀬野 武 (テクノネット社代表)
 理事・事務局 八代啓一 (テクノネット社)

NPO法人 スーパーコンポジット研究会
 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-1-6 永谷ビル315号
 TEL&FAX 03-3231-1401 E-mail: supercom@cap.ocn.ne.jp